

樹木医

阿部 航 (樹木医登録第2330号)

内田 征孝 (樹木医登録第1861号)

総評

対象のサクラにおいてコフキサルノコシカケ(※1)、ベッコウタケ(※2)等の腐朽菌も確認でき、また、植栽樹と樹木の大きさとの関係性など現在の樹勢や生育環境を考慮した場合、移植は困難と判断いたします。

さくら育樹の会の皆様とも打合せをさせていただきました上で、今後の対応としましては、工事影響のある範囲のみ、必要最小限の掘削や剪定等を行い、その後、切り口の癒合材(ゆごうざい)(※3)の塗布等の適正な処置を施したうえで現在の位置での対応が望ましいと考えます。

各樹木について

- ① コフキサルノコシカケ(※1)が確認でき、幹内部の腐朽が大きく進んでいると思われます。また、コスカシバ(※4)の加害が強く見られ、樹勢も弱っており移植には耐えられないと判断できます。
- ② ベッコウタケ(※2)の幼菌が確認でき、根株の腐朽の進行が始まっている可能性があります。また、コスカシバ(※4)の加害や酸素不足による根上りもあり、樹勢は弱っていくと考えられ移植には耐えられないと判断できます。
- ③ ベッコウタケ(※2)が確認でき、根株の腐朽が大きく進行していると考えられます。また、大枝の開口空洞からの内部腐朽やコスカシバ(※4)の加害もあり、樹勢は弱っており移植には耐えられないと判断できます。
- ④ 車両の接触による欠損部の強度が低いと判断でき、幹の重さに対して竹の補強では耐えられません。また、コスカシバ(※4)の加害も多く見られ、今後が樹勢は弱っていくと考えられ、移植には耐えられないと判断できます。
- ⑤ コフキサルノコシカケ(※2)が確認でき、幹内部の腐朽が進んでいると思われます。また、コスカシバ(※4)の加害や枝先の枯損も目立ち、樹勢は弱っており移植には耐えられないと判断できます。
- ⑥ 複数年にわたるベッコウタケ(※2)の発生が確認でき、根株の内部腐朽が大きく進んでいると考えられます。また、車両の接触による欠損部分も大きく、更に、コスカシバ(※4)の加害が見られ、樹勢は弱っていると考えられ、移植には耐えられないと判断できます。
- ⑦ 他のサクラに比べ肥大成長が弱く、衰退の予兆が感じられます。また、コスカシバ(※4)の加害や枝先の枯損も確認でき、今後が樹勢は弱っていくと考えられ、移植には耐えられないと判断できます。

用語解説

- (※1) コフキサルノコシカケ: 腐朽力が強く、主に幹部を腐朽させ幹折れの原因となりうるキノコ。
- (※2) ベッコウタケ: 腐朽力が強く、特に根株を腐朽させるため倒木の原因となりうるキノコ。
- (※3) 癒合材(ゆごうざい): 剪定等による樹木の切断面を保護し、切断面の腐朽進行を遅らせる。
- (※4) コスカシバ: 主にサクラ類の樹木に対し、栄養、水を運ぶ組織を幼虫が食害する為、樹勢を弱らせるだけではなく、個体数が多い場合枯死する場合もある。



図 対象のサクラ①～⑦(各樹木についての内容と対応)